校正
七部集
坤

阿羅野

尾陽蓬左橿木堂主人荷兮子集を編
く名をあらはすといふ何故ゝ此名有事
を志ゝを尋ねるこのふねのゆくゑひとゝせ
此郷の旅集せゝとゝくの書稿をあつ
めゝ冬の日とのふをもの日の事ゝ続ゝ
書れ日まゝ世ゝこのやうをけみや方文
芭やよひの京ゝ九ゝ歳柳の陰とな
らそひてふるのおれゝさまゝくふる風情
につゝくゝいさゝこの實をとゝ志れふものを
あれもふやいゝ申ふのいとゝのもゝふるふの
もゝれ有ゝのなゝさうふ申ゝて姫申の
のなゝふゝもつのもゝ者の大定ふゝ殺生
てゝ尋ゝ者のきゝゝまゝりなゝさ道ゝのゝゝ志
る角ゝむと此野の系れ殺るゝいゝる
へゝ

元禄二年仲冬

芭蕉桃青

曠野集

花三十句

よしのゝく

[illegible]　貞室

[illegible]　路通

[illegible]　信徳

[illegible]　晨風

[illegible]　友五

[illegible]　尚白

[illegible]　去来

[illegible]　野水

[illegible]　亀洞

[illegible]　越人

[illegible]　一井

[illegible]　俊似（津島）

[illegible]　嵐蹄

[illegible]　舟泉

[illegible]　胡及

[illegible]　長虹

[illegible]　卜枝（津島）

[illegible]　鴎歩（岐阜）

[illegible]　荷兮

[illegible]　傘下

[illegible]　薄芝

[illegible]　心苗

[illegible]　越人

[illegible]　野水

[illegible]　冬松

[illegible]　冬文

[illegible]　荷兮

[illegible]　芭蕉

[illegible]　同

杜宇二十句

ほとゝぎすを問ひてくものふるさとの数日を経て　李吟
名月の夢見ん宿ほとゝぎす　素堂
月のかをかをる山ほとゝぎす　和夕
いそのゝきなるふせりの郭公　釣堂
蠅燭のひかりのうつるや蜀魂　越人
松ふかゝるみのはるゝやる時雨　津島　松下
蹄や先塞のつゝく壁をきの音　重五
ほとゝぎすたゝらさくむかしの長苑　柳風
ある人のもとにて数句せよとこゝ有りて紙を
かゝるきをかつかつかの鳥の形　嵐蹄
鳴ちるる元明やなかゝきて　落梧
蛙屋奥きく森元うゝ川や郭公　一髪
ふるゝ原ほと蹄のとゝやほとゝぎす　同
淀にて
かゝるきてて十日もやきく秋の月　風泉
蛙しさや森のうらぬ先のほとゝぎす　吸阜　杏雨
あふれしや今新くゝる　傘下
くゝるうやカかまゝくゝきく郭公　同

馬と馬ふるとあひくゝきく　鈍可
くゝるあるの月をのれる〳〵吟せら汗〳〵ふ
おのゝるきかのゝ秋ほとゝぎす　大津　智月
ふるゝるとうるきみゝ郭公　李梅
うゝのうとをのゝてほとゝぎす　市山

月三十句
かるくゝと笹のうゝ月　月夜小　土歳　梅舌
それうゝや月をる中のひかり小　湍水
月ひとりのちかうゝのちかく今宵小　一雪
面の月ととよなりの屋あうう　越人
けうとをふ少振むくゝ海松れ　昌碧
屋わくうの宵ふさひゝや月の新　津島　市柳
をうけふほうて踊る月夜哉　一髪
とゝをとゝとをとをの中小　長虹
体まて砧抱く月見この那　任他
一つ屋やうのとをる人の月　亀洞
在月を松原るまをあうう　越人
名月やゝ十二を穿ゝう　文鱗

名月や うつくしさ[illegible]ぬ　昌碧
さいけつやそくしてあるく雲の中　傘下
名月や 鼓の打ちと 犬のこゑ　二水
月のかのとをえて人の戸たゝく　野水

名月の心いろ〳〵

ぬつて〳〵と月をたる日は犬ト鼓し　荷分
月の夜とあらそふて名也　同
名月や 法とおもふ 次ぬ[illegible]　去来
名月や 上戸と下戸 ねまち[illegible]　朔及
めつらしくあらそふて[illegible]　釣雪
宮ゐ〳〵 橋はさびしや 月の新　一髪

十三夜

新そば[illegible]ぬ 極ぬる月夜かな　杉風

朔日

[illegible]の[illegible]月の夕[illegible]　荷分

二日

[illegible]人[illegible]月の夕[illegible]　同

三日

[illegible]の[illegible]月　芭蕉

四日

夕月夜あんとうとして[illegible]　卜枝

五日

[illegible]月　伊豫　一泉

六日

銀河[illegible]月のそら　岡崎　鶴声

七日

[illegible]月かな　岐阜　一髪

雪二十句

大[illegible]

雪の日や 昨[illegible]の顔の色　其角
いさゆうむ雪[illegible]ふうふうまて　芭蕉
竹の雪 [illegible]の[illegible]　塵交
かさ[illegible]や 雪のある山 京の山　加賀　小春
車道 雪[illegible]の[illegible]　加賀　越人
雪つ雪とつんてうう 顔と[illegible]　是幸
[illegible]雪ふ戸明ぬ留[illegible]の[illegible]

あれのけのふるめと雪の一ツ小　松芳
ふるさと花ふる雨に笠うり雪の隈　二水
雪降るくるる屋ふさひる春の郡　鳥仙
秋の雪おくるめやう小牧あらん　岐阜除風
雪のりや川霜もろこしほろくと　警
初雪やおしふるあれの雪の雁　傘下
雪のにの大舟よりいかふの郡　芳川
雪の紅かくれ蓮ふるあり雪し　冬文
雪の雪る杉さやくしや雪の寒　桂夕
ちくくや雪雪かくる酒強飯　荷兮
雪川雪やたるる飯ふくく　蘭雪
はるる雨くく雪の天糸あり　野水
舟の雪ていくのふれくあの雪　芳川

歳旦

二月九日ぬくうはせくふる花の天　釋芭蕉
ふれくへのふるらむくらくの花の天　古梵
ワくあや九千年のはるくく縄　凡鈴軒
杉くくり伊勢の家買人を雑　其角

文蘇
去来
一晶
路通
一笑
大垣如行
岐阜落梧
同
亀洞
大山昌碧
元廣
舟泉
同
重五
釣雪
同
一井
胡及

くくの召連歌ふあくくくふ青
月雪のくめふとくくくく門の松
かくくふふあくて年ふる柏の邪
えれやかくなくくくと走くく
えりはいはくまくくるくくふ
蓬国くく梅の糸うむふ
ふくくくくくくくくくふ
糸ふをくくくくくよ雪の柳
伊勢浦や所ふ川柳むくの天
くくふくくくくくくくくくくむ
雪ふのくくくくくくくくくくく
小柳子栗やひくくくくくくくの
くく男千秋ふをくくくくくけく
山柴ふくくくくくる竈の水
杉くくく川るくくくく年くくく
月花の初くくくくくくくくく
連くくふくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくくくく

[illegible]むの年の海　長虹
今[illegible]と紙く縄や　わとく柳ゝ　蒐彈
[illegible]服や　ふくの面　[illegible]　同
[illegible]菓や　舟の面　[illegible]　滞水
[illegible]　京　と[illegible]
[illegible]　朴什
[illegible]　冬文
[illegible]　傘下
[illegible]　冬松
[illegible]　柳凡
[illegible]　防川
[illegible]　昌勝
[illegible]　夕道
[illegible]　梅台
[illegible]　野水
[illegible]　同
[illegible]　越人
[illegible]　同

[illegible]川や　[illegible]　荷兮
[illegible]盛の　[illegible]　同
[illegible]　同
[illegible]　信　般齋
[illegible]　貞室

初春

[illegible]　越人
[illegible]　野水
[illegible]　津島　俊似
[illegible]　か賀　小春
[illegible]　藤羅
[illegible]　岐阜　素秋
[illegible]　玄察
[illegible]　鴎歩
[illegible]　越人
[illegible]　落拾
[illegible]　一髪
[illegible]　冬松

みのむしとなれつる梅のさうのふ　蓑笠

紹代民部の息ふ遠く

梅の香ふなれやとうぐひすや梅の花　芭蕉

うぐひすの呼そこたかくる竜の髭　長良　若孔

雲の呼や餌ひろふ人庭をみる　去来

明石のや雲そまるる竜の髭　伊賀　一桐

雲ふちひさき蕨と持ち是し　津島　一笑

うぐひすの春く人脱ぐる脱中ふ　同　市柳

雲ふかりしうとかなそや新蕨　夢々

うぐひすふの吸こぼをかけこふ　梅舌

ちとうもむ夕とうの川の雲の邨　野水

ふくくく行のうぐひす雲うの　臺交

行人の蓑とうぐひすふ　冬文

かもやまとやまとうけふの一二す　芭蕉

うぐひすやるの脈のうぐくと　傘下

うぐひすの春ふ仏のうるるとうぐひすふ　路通

蝶をとゆるくくうぐひす枝　荷兮

つくくうと思のあくとるさ蕨　舟泉

接木

つまたとのくくうぐひす絶ふ　傘下

撞

晩の鐘ふあうるはるの荷兮

同

蕨ふくく陸紙のつる接ふ　卜枝

春雨

うる春ハいせの雲一ふうう元　湯水

同

夫の雨井とものを呼くこよ　荒弾

白尾鷹

ものふさの風つまけくる白尾ふ　野水

蝶のいふまる春うくるふ　奇生

立河ふうるるるるるあさ玉ふ　十二歳　亀助

ちくくと紀子描くつくくし　舟泉

ちくくと描やつくくそや大巣　其角

ちくくと蕨ふのまくうちま　蕉笠

土筆やよろこぶたえまるつくし　塩車
川あやをとのつゝつむはらゝゝ　冬文
つくゝし所中ふまるふるとも　青江

蘭亭の主人池ふ魚をやきられしに

筆意有余ふり

池ふ魚ゝ　俳諧　素堂
風のふく方と浪のやうにふきう邪　野水
行ゆくもなくとまるゝ柳う邪　越人
ぬけ枝こゝ出ぬるをもおりうつし　一笑
月をうつもゝこゝこゝぬる柳う邪　小春
ちるれゝ柳ふ風ふうつむ　一笑
ふうつきて花をとむる柳う邪　昌碧
さくをまゝ髪のゆうまぬ柳ふ　杏雨
ゝゝうゝて場ふ柳のうゝやれきふ　此橋
うゝ風ふ年のうきしゝ柳う邪　杏雨
吹風ふ麦ゝうもるやれふ　松芳
うをうぬ月ふ月のうの柳うる　校遊
ゆうゝきゆゝ飛浪をゝぬ柳ふ　荷兮

蝙蝠ふゝゝゝ月のやれきふ　同
まゝ行りうゝ飛てをゝ車う邪　素秋
引ゆきふ侵ゝうゝゝ世をゝれ　鴎歩
菊の花ハ宗匠ゝれゝと植ふゝ　生林

仲春

麦の芽ふ菜のゝれうゝる蕗う邪　不悔
菜の花や枝菜のふほのゝふ　長虹
なの花の麦をふゝる貝れう邪　傘丁
菜の花の陽うゝ紙をなうふ　清洞
うゝゝれゝえで物ゝ川林ゝう邪　去来
万歳と仕舞ゝうゝる毛回うれ　昌碧
つきまゝて初ゝらゝゝさゝふ　越人
麦ゝ麦ふ一年うゝゝゝゝふ　笑艸
ゝゝゝゝハ蕎千ゝゝゝゝ咲ゝうう　除風
ゝのゝゝゝゝゝとゝる橋ふ　一橋
うゝうゝうゝ花ぬ世のゝゝふ　冬松
ゝゝゝゝゝゝゝ花ぬんゝゝゝ　一髪
ゝ風ふゝのゝゝゝふる毛虫ふ　野水

あしのさとふるてふしぬくのせゝ落ふる　除風
るまゝふつゝをあらむる雑子ふ　一雪
りうゝを輪縄解くやる雑子ふ　塩車
ゆとつゝく雲ヤあるる蛙の邪　山嵜　宗鑑
四ゝゝくゝゝあんけぬ　うゝゝ川ふ　落梧
あゝつきとゝ出つゝ　ふゝゝ峠　越人
いゝゝゝゝ貴ゝる岸のゝゝ川ふ　去来
花ゝゝまゝゝあゝゝ　ゝゝゝの川　落梧
不国ゝんて降ふ居ふ　ゝゝる蛙ふ　津高　松下
ゆゝゝゝ投網ふ　ゝる　ゝゝゝゝる　一井
ゝゝ蝶ゝ思ゝゝ　ゝゝて笑ゝゝ　柳風
桜桐の葉ふゝゝゝて　ゝゝる胡蝶ふ　梅餌
かやゝゝゝの中ゝ知ゝ　ゝゝるゝゝふ　炊玉
ゝの蛙ゝやゝゝかゝゝゝて　ゝ胡蝶　百歳

暮春

何の葉ゝつゝふ土ゝの葉ゝ　忠知
ねゝゝゝゝゝふ葉ゝゝ　荷兮
ゝうゝゝの土ゝる蛙ハゝゝ　野水

ゝゝゝゝゝ河の葉ゝの　舟泉
草刈ゝ葉遊歩ゝ　童　この邪　鴉歩
ゝ蛙のゝゝゝ　ゝゝぬあゝゝふ　烏遊
ゝ烟の人ゝるゝゝの　蛙ゝの　杜国
ゝけ山ゝ　ゝの　ゝゝゝ　所　大坂　或之
ゝゝゝゝ山ゝゝゝ　ゝの　芭蕉
ゝゝゝゝふゝゝ　ゝゝゝの色　野水
山ゝゝゝゝのゝゝゝ　ゝふ　卜枝
一ゝゝゝ山ゝのゝゝ　ゝゝゝ　岐阜　徳雪
ゝゝゝゝゝゝゝゝ　ゝゝゝふ　同　蓬雨
あゝゝふゝゝゝゝゝ　ゝゝゝ　去来
ゝゝの島の土ゝゝゝ　ゝゝゝ　俊似
いまゝゝゝゝゝゝゝ　ゝゝゝふ　長之
燕の巣ゝ覗ゝゝゝ　ゝゝ　長虹
ゝゝ寄ふゝゝゝゝゝ　ゝゝゝ　荒弾
友城て四ゝゝゝゝ　ゝゝゝ　具藁
角ゝゝゝゝゝゝゝゝ　ゝふ　蕉窓
ゝゝゝ燕ふ孰ゝ人浦の　ゝゝ午ふ　越人

家もあるとも同じ　秋もあや　桃の酒　傘下
人喪ぶむ　水と陸との　志自千　三輪　友重
山まゆふ　光さきつる　ゆるる　郷曙　荷兮
鶯　松やかのうて　志ぶを　夏の花　兼正
冊　たふ　蓋の　けぬ　鶯　春の丸　亀洞
永きより　陸　撞　跡と　流ぬ　ト枝
永きより　沈　元　水　よりる　喜　野水
り　春の　あし　鳴　うを　おし　ろう　同

初夏

うぶ　もの　人や　白きい　ゆふ　ものつ　路通
更衣　鶯　ちて　ちや　たう　ちふ　傘下
うう　もの　刀　ちし　てて　ちち　釋　亀洞

貴　拍　老人　のち　たま　ひし　ちち

香　ちる　のち　ひし　ちち　ちち

ちて　春の　秋　越　人　ぶき　ちを　ちれ　ちく

ひる　ひう　菓の　ぶき　ちを　ちれ　ちく

雖ふ　焼　香を　ある　ふし　ちう　もく　荷兮

山　秋　ふく

芭蕉

ふの　ひと　ひの　ふ　一井

ちも　ひと　ちれ　ふ　ちん　ちち　ちる

秋　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　越人

切　ふ　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　不文

ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　同　藤蘿

ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　亀洞

ひ　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　竹洞

ゆ　ひ　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　鈍可

ち　け　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　夢々

ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　玄察

ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　生林

ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　作者不知

ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　鈍可

ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　嵐蘭

ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　落梧

け　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　岐阜　李桃

大　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　東巡

ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　吉次

源川の蛍ふく　嵐雪
庵の松をしらくもの　野水
はたへしさの色いおわえ　仲夏

宵の月い毋ふ　元甫（樂井）
川蛍のてる毋ふ　一髪
宝ちくさ陸ゑ　不交
雲ようくくと人峰　風笛
乃細く迫ぬ沢の　青江
るの夜いかもう　合帖
くさうの神より　卜枝
の路く澤ゑる神の　鴎歩
ちをて葺室とふ　秋芳
くらうしのくくあやの　小春
坂のれて梅の一本　杏雨
かちゑ木ふ森　二水
毋の丸傘のくうふ　一笑
数の痩て燈のうつふ

蘭の長をうけける　胡及
波川く蘭の花ちむ　児竹
見伸くく姫百合ゑ　此揺
竹の子ふ竹鶏さけ　長虹
筆の時よりまる　去来
沙ちをくくくかちを　野水
わ月毋ふ祈きまる　一龍（天津）
こ長法いふ結ふ　尚白
百毋毋い傘ふ丸ち　惡洞
波辛ふく
おりくうさしさまる　負室
却くくふく
おとくろて中てかき　芭蕉
却くく
結の清くふ毋ふ　荷今
同
ちあくを新とくん　越人
光ちゑの駅をかちる　淳児（大津）

曲江ふ梅の花えぬうつる梅餌
暗の巣のええくりあるいうくれう 路通
松さえの緑とえてくる夏陣の跡 卜枝
虹の根をこのく涙四十四の樗ふ 鈍可
蘭の花や泥ふよりそうる宵の月 同
孫子のや蔵書人をうらむらん 越人
冷しや 灯のこ涼夏のあさ 蘆蘿
夏の松やくくふ蔦えるる里 旦藻

菴の白寺ふ

きしのくさくさくさくさふ夏の蔭 其角
夕うれや秋いい絡くくの瓢ふ 芭蕉
やふうれのきりむくくの赤めく 野水
夕のくいい松のるおくのくくさふ 偕雪
山絡まてタうれみくるのれうふ 津島 市柳
名い角ちまタこのほふ洲て長く 長虹

暮夏

橘を命くやうく蟬のこえ 昌碧
きの暑絡うけふくるくうう 野水

夕ふ干 傘ぬくく 垢 絡 穂 この邨 傘下
ちくくふ松やらぬ朱陰ふ 奇緒
絡くくよ白雨なくく 入日うけ 去来
蔦くく絡くや宿のきひりロ 荷兮
きき屋の砂ありうぬくうふ 同
おかえれのくふあきうう多 鳥海 絡く 如風
乱えの石絡や茶のトくくみ 津島 俊似
絡くくや樓のトやくくふの吉 仝
桃蛇のくくやらやうくく絡く舟 卜枝
きくくくくわれて川ふ 未雪
吹ちうてくのくやくきこの邨 岐阜 秀正
蓮ふむりきくやくさいわるくくくき 松坂 晨風
蓮ふをてみれくく蓮ふ音ふうう 古梵
河岸うくのわきのかのうきこのれ 芙水
ちらくくきくくう松の古葉ふ 長虹
きくくきりくく沙干の沖の清ふ 俊似
連あ屋くく絡きくく絡くく清水ふ 文瀾
りくくくくきふのまきくるきうれふ 潦月

かくしらい淺黄ゝてゆ[illegible]　尚白
[illegible]　一髪
[illegible]　卜枝
[illegible]の[illegible]　岐阜　李晨
[illegible]　球人
[illegible]　素堂

初秋

ちゝ[illegible]や麻刈あとの秋の風　越人
桐の[illegible]　圓解

松焙雲居の青あく

一[illegible]　仙化
うとひらのちゝ[illegible]や秋の夕ぐれ　津島　方生
男[illegible]　杏雨
[illegible]　芭蕉
[illegible]　文鱗
あさ[illegible]　荷兮

子を守るものゝいひ[illegible]の白[illegible]
[illegible]　同

[illegible]れる[illegible]　鴎歩
あさ[illegible]　胡及
[illegible]　荒彈
[illegible]　去来
松風や[illegible]　昌長
[illegible]　警行
[illegible]　一髪
さゝ[illegible]　素秋
[illegible]　芭蕉
いな[illegible]　其角
[illegible]　舟泉
[illegible]　芭蕉
[illegible]　作者不知
草[illegible]　伏見　任口
[illegible]　荷兮
[illegible]　胡及
[illegible]人や[illegible]

宗祇法師のと[illegible]

[illegible]　素堂

[illegible]

仲秋　　俊似

[illegible]　芭蕉
つくつくと續とこそ秋の雪　加賀　小春
谷川や茶碗そそくく秋の雪　津多　益音
石切の寺と寺とり燈の[illegible]　傘下
[illegible]のねや燈[illegible]あきれる　卜枝
[illegible]の寺ふ人の鳥[illegible]ゆふ　一髪
田と烟とひとつ[illegible]むまるふ　伊豫　一泉
山[illegible]の[illegible]つくくまへく　重五
[illegible]の[illegible]の烟の　其角
[illegible]人とかのひてる[illegible]ふ　東順
藪の中ふ[illegible]ふ枝ふ　林斧
[illegible]れく地ふ[illegible]の[illegible]れり　越水
[illegible]の寺ふ[illegible]の[illegible]ふ　宗和
[illegible]秋の[illegible]ふ[illegible]
[illegible]ふ[illegible]ふ[illegible]
和[illegible]我[illegible]秋[illegible]　加賀　北枝
素堂[illegible]

[illegible]の[illegible]越人　防川
一本の芦の[illegible]　舟泉
[illegible]の[illegible]秋の螺　胡及
[illegible]の[illegible]ふ　曉龍
[illegible]ふ[illegible]の[illegible]
[illegible]　其角
[illegible]ふ[illegible]
[illegible]　芭蕉
きぬ[illegible]て我ふ[illegible]ふ坊[illegible]　加賀　一笑
[illegible]の[illegible]　遠里
暮秋
[illegible]れく[illegible]の[illegible]ふ　巴丈
[illegible]菊の[illegible]ふ　昌碧
[illegible]の菊[illegible]　越人
一[illegible]の菊[illegible]　曉龍
荷[illegible]室ふ[illegible]
[illegible]土器[illegible]
[illegible]の[illegible]　其角

きくの香ゆかるる人や　鬢髪ゆる　其角
ゆふなりて菜屋ら人　二水
かなりて苔さく　東の塔ゆ　千岡（伊勢）
林しさい檀の実　芦夕（讃州）
秋の蓮ものこる寺ちゆ　加生
芦の穂やまゆく　路通

初冬

あをつちのそれしるる時雨ふ　湖春
京なる人ふや　尚白
一夜さて三井ちるうく　湍水
ちりぬ花のおかひ出すこの夕
万句興行よ
元ちう蓮人人ゆやりの時雨ふ　荷兮
人ちゆうるる日ふ
今新ふ枕元ちうるちれふ　落梧
海ものの下線のこすちれ　炊玉
ちるちるちう蓮ちる時雨ふ　傘下
ちうふ二日のちきちるる　荷兮

一髪ふかるるる　一髪
この夜ふ弟ちゆ　同
枇杷の花人のちちて　同
茶の花いちのつてふる　李晨
梨の花ちれふぬれて　野水
蓮ちのいりうるる　昌碧
寄まちて寄ふ　同
のるるやちる　一井
繰ものとるみく　落梧
石向の秋くちの　胡及
まるくちちる　文鮮
ゆるるき海鼠ふ　卜枝
ちゆ結ふ風の体ちゆ　洞雪
蓮池のうるちる　一髪
雪ちて石けつ　松芳
ちるしふ吹ちれ　杳雨
雪ゆの秋ふ　蕉笠

寒月

燈と思ふ　野水
あさぼらけ　俊似

仲冬

おろし吹く　津島　勝吉
霜ふれる　同　重治
樵夫の　林斧
笠の戸と　杏雨
いくしける　宗之
雪の　杜國
あ稲の　勝吉
流れ池　俊似
つきつ　除風
手とる　夜舟

兼題雪舟

雪より　荒弾
ぬつくりと　荷兮
ねとこあて　長虹
る雪舟　一井
雪舟川や　亀洞
つまのつく　合呫
雪舟や　白炭　忠知
舟ふく　亀洞
朝鮮と　村俊
井と掘る　亀洞
とこいみて　裸うなり
汗出して　冬松
海荒暮の　利重
炭窯の　亀洞
膝節をつく　塩車
火くるして　加賀　一笑
いりこけし　亀洞
あ炭うり　芭蕉

歳暮

餅つきや　李下
五十年　尚白
かち花の　野水

[illegible]　亀洞

[illegible]　一髪

[illegible]

[illegible]　荷兮

[illegible]　内習

[illegible]　亀洞

雜

年中行夏内十二句

供二磨蕎白散一　荷兮

春日祭

石清水臨時祭

灌佛

端午

[illegible]髪

施米

乞巧奠

駒迎

撰虫

十月更衣

五節

遊儺

詩題十六句

今日不知誰計會　野水

春風春水一時来
白庁落梅浮澗水
春来無伴閑遊少
花下忘帰因美景
留春春不留春歸人寂寞
巖風吹袂衣不寒復不熱
池晩蓮芳謝
暑月貧家何處有客
来唯贈北窓風
大底四時心総苦就中腸断是秋天
夜来風雨後秋氣颯然新
遅々鐘鼓初長夜
耿々星河欲曙天
残影燈間墻斜光月穿牖
万物秋霜能壞色
十月江南天氣好
可憐冬景似春美
寂寞深村夜残鴈雪中聞
白頭夜礼佛名經
佛名の礼り獨悲く白髮小

鋸鋏目立　舟泉

かゝる秋の夕日にくゝつる

付木突

わが身周り多く寄てい[illegible]人の乱

鉤瓶縄打

かゝるやうの日のくれよる秋の里

糊賣

あさ雲のこゝろ[illegible]ゆくむつかしく

馬糞掻

こゝら〳〵の打の葉ゝとつまゝて　越人

李夫人

魂在何許香煙引到焚香處

かけろふの抱はるゝやつのこゝろもとの乱

楊貴妃

雲髩半偏新睡覺

花冠不整下堂來

ゆる風ふ芋ゆゝこゝる蕉紙ふ

昭陽人

小頭鞋履窄衣裳青黛點眉

眉細長外人不見々應笑

ゆの敗者やむ〳〵の夫の侵ちゝん

西施

宮中拾得蛾眉斧不獻吾

君是愛君

花なうゝ楼ゝのゝらゝる牡丹ふ

王昭君

玉貌風沙勝畫圖

よのふゝもまゝれぬゝ[illegible]の御ふ

一日芋ゝとまゝるゝ[illegible]ゝ

卯

蕉屋の蚊やゝ佛供炊ふ出ふ　釣雪

辰

杜鵑せん繰ゝの寄る日の邪

巳

講釈の時ゝふつゝふ扇うち

午

[illegible]

未

蟬の[illegible]武家の夕合[illegible]

申

[illegible]

[illegible]

山獄

廉[illegible]の[illegible]

野鳥

[illegible]

里虫

[illegible]

海魚

[illegible]

川魚

秋の昏[illegible]川[illegible]の[illegible]

牛馬四足是謂天落馬首

穿牛鼻是謂人

一方い[illegible]の徒[illegible]小　越人

藏舟於壑藏山於澤謂之固矣

而夜半有力者負之而走

[illegible]

絶聖棄知大盜乃止

七夕[illegible]

銳者夭

[illegible]

鈍者壽

[illegible]

藤房

[illegible]

師直

[illegible]

一休

[illegible]

法然

桂夕

市山

一井

長虹

端水

[illegible]の[illegible]のつくろひもれきうくゝ　荒聞

山岩

[illegible]くゝ山い影う城るこの岩の角　湍水

海岩

苔ところ〳〵海やを土めかくゝ　仝

名所

八幡の[illegible]し奥とをくる[illegible]田ふ　杜國

[illegible]の[illegible]の岸や武蔵[illegible]大江山　荷兮

かゝ[illegible]花[illegible]松を[illegible]ゝ　芭蕉

菓一把[illegible]く花をる[illegible]ふ　湍水

[illegible]塚まてい[illegible]あ[illegible]ぬ花[illegible]　荷兮

琵琶橋眺望

[illegible]る鬼嶽さひを[illegible]生ふ　舎帖

[illegible]て家を[illegible]ふ　宗祇法師

美濃國関[illegible]

[illegible]の[illegible]とをて[illegible]

[illegible]野をて布を賣て[illegible]更　言　杜國

[illegible]の[illegible]　重五

[illegible]ふうれぬものや[illegible]の[illegible]　芭蕉

湖の[illegible]ま[illegible]月雨去来

牛[illegible]の[illegible]の[illegible]月雨　一髪

角田川ふく

いとのわれ[illegible]義の[illegible]人[illegible]　貞室

みう[illegible]いの[illegible]見の言　破笠

いとよひ[illegible]の[illegible]ふ　芭蕉

夕月や[illegible]る角田川　越人

九月十三夜

[illegible]ふ[illegible]あ[illegible]ハ[illegible]の月をよ　素堂

[illegible]の[illegible]ところを[illegible]田[illegible]　胡及

[illegible]の[illegible]の[illegible]ふ　淵支

武蔵[illegible]ふ[illegible]る時雨　舟泉

湖を[illegible]ひら[illegible]ふ　尚白

かゝ[illegible]く[illegible]　伊賀　随友

むさ[illegible]の[illegible]ふ　洗悪

[illegible]ふ[illegible]蔵を結ふ　少花の奥　俊似

[illegible]れの[illegible]海[illegible]小[illegible]の奥　津島　一笑

雲の不二ちら〻ま一川よりうれしう　湍水
ようやゝ山も唯大雲の夕べうな　野水
早稲の穂うるをそよやゝ吹みる　芭蕉
あるの月や弓張の小丸の雫ちらひ　如行

旅

さ寝ようよりふやはちち人浦の邨　芭蕉

大和國平尾村山〻

花の盛強ふ仰くる藤棚の邨　仝
樹さく〻ま〻を眠ま〻ま〻ちらと　夕楓
日の入や弄ちるく〻の　一髪
つ〻ゝ湊の雲ゝ生ゝこの邨　荷兮
ひ〻川行く淀ふ知ぬ衣夕へ　芭蕉

あ〻人の蔵別ふ

おゝ〻きぶ〻ま〻ま〻ま〻ま〻　除風
森ゝ〻ゝ食〻〻〻ま〻ま〻　冬松
姿をゝ〻ゝ〻ふ〻ま〻ま〻　昌碧
ある月の夜や枝目　芭蕉を市の夜　松芳
夕〻ふ〻の大〻ゝ一志屋敷　傘下

芭蕉子を送る別の邨　釣雪

稲ま〻ふ〻ま〻ま〻ま〻ま〻　一井
な〻ま〻て秋ふ〻ま〻る秋の蟬　野水
秋風ふ〻ま〻ま〻ま〻ま〻　舟泉
ものゝ〻ま〻ま〻ま〻ま〻　鼠弾
音ま〻ま〻ま〻ま〻ま〻ま〻

ちま〻ま〻ま〻ま〻ま〻ま〻

文殊の原ま〻二人ふ〻ま〻ま〻　荷兮

越人藤ま〻ま〻ま〻ま〻ま〻

ま〻ふ〻ま〻ま〻ま〻ま〻ま〻　野水
おゝ〻ま〻ま〻ま〻ま〻ま〻　芭蕉
鶏の鳴ま〻ま〻ま〻ま〻ま〻　路通

特牛神ふ相其角ま〻ま〻ま〻

特牛神ふ藤ま〻ま〻ま〻ま〻　荷兮
ま〻ま〻ま〻ま〻ま〻ま〻　ち京
入日ふ今ま〻ま〻ま〻ま〻　玄察
能きま〻ま〻ま〻ま〻ま〻　一井

[illegible]の墓をとはの里の秋の雲　文鱗
[illegible]秋と[illegible]よるの雨　芭蕉
[illegible]刀うつて[illegible]紙　津島　常秀

[illegible]芭蕉[illegible]
[illegible]荷兮
[illegible]羽織ハ綿の入り[illegible]　野水

其角ふかうとも[illegible]
[illegible]荷兮
[illegible]越人
[illegible]傘下
[illegible]宗因

越人と吉田の驛[illegible]
[illegible]芭蕉
[illegible]仝

述懷

[illegible]路通
[illegible]快宣

余[illegible]落梧
[illegible]杜國
[illegible]梅舌

高野[illegible]

[illegible]芭蕉
[illegible]荷兮
[illegible]仝
[illegible]杏雨
[illegible]杉風
[illegible]亀洞

高野にて

又冊の[illegible]

[illegible]

九月十日[illegible]堂の亭[illegible]

[illegible]嵐雪
[illegible]曉龍

人のいりとろ[illegible]

旧里の人[illegible]芭蕉

[illegible]杜國

鎌倉建長寺ふまうてく

[illegible] 越人

[illegible]

[illegible] 荷兮

[illegible]

[illegible] 荒弾

[illegible] 去来

[illegible] 西武

[illegible] 芭蕉

[illegible] 除風

[illegible]

[illegible] 越人

憲

[illegible] 伊勢 一有妻

[illegible] 除風

[illegible] 長虹

[illegible] 文瀾

[illegible] 冬文

[illegible] 心棘

六宮粉黛無顔色

[illegible] 長虹

[illegible] 尚白

[illegible]

[illegible] 荷兮

[illegible] 小春

[illegible] 越人

[illegible] 俊似

[illegible] 舟泉

[illegible] 嵐蓑

[illegible] 松芳

[illegible] 冬松

[illegible] 昌碧

無常

末期

[illegible] 守武

無常迅速

[illegible]の川ひまのあきけしの島　傘下

末期う

[illegible]　[illegible]の[illegible]　樓　元順

松坂の浦瓢[illegible]人の[illegible]

[illegible]

[illegible]の[illegible]　荷兮

いもうとの追善

[illegible]　京　去來

[illegible]の[illegible]の[illegible]　荷兮

世[illegible]の[illegible]の[illegible]

[illegible]の[illegible]　野水

辞世

[illegible]　主コ斎

[illegible]

[illegible]　落梧

一原野[illegible]

[illegible]小町の昔の[illegible]　釣雪

[illegible]の追[illegible]

[illegible]の里人[illegible]　自悅

雪下の妻の[illegible]

[illegible]　去來

[illegible]

その人の新[illegible]　其角

[illegible]秋の[illegible]

[illegible]の[illegible]　尚白

[illegible]人の追善

[illegible]の[illegible]　芭蕉

[illegible]人を

[illegible]　[illegible]　鼠彈

[illegible]野の[illegible]　[illegible]　加賀　小春

釋教

伊勢[illegible]

[illegible]　芭蕉

[illegible]　鼠彈

西行上人五百歳忌ふ

[illegible]　荷兮

[illegible]　胡及

連翹や[illegible]日と[illegible]れる二[illegible]ふ　松芳

うて[illegible]ふ墻の菓うくるの[illegible]　杜國

[illegible]　冬松

[illegible]　其角

[illegible]　越人

[illegible]　仝

[illegible]　俊似

古寺やつるきぬうのの華　一井

八[illegible]

[illegible]　千閑

[illegible]　一井

[illegible]　蕉葉

灌佛の[illegible]　芭蕉

灌佛の[illegible]　尚白

[illegible]

[illegible]　一雪

[illegible]　一笑

十如是

[illegible]　荷兮

即身即佛

[illegible]　愚益

[illegible]　鼠弾

[illegible]　荷兮

[illegible]　探丸

石竜ふ旋風鬼の狗のうつまの形　文里
魂ぞ無きう酒を子白寺刹　亀洞
たもあるうるふうあるる北条　卜枝
桜花のちらをそそん松の蔭　釣雪

平等施一切

桜花うくうくり人をとうえうう　俊似
稲荷ふ大仏をそむ野中ふ　椅兮
坊紙うり川辺　野くくをを紙ふ　卜枝

なる人四間の寄初ありとを龍
新とこ不合不国ふ人と感くく
赤白屋をとくくを寺
屋くくを石仏うなるを　荷兮
ある寺の無行ふ

夢と古寺の鐘ふ人をうく　其角
をくく知くく坊ををうしや月の森　一井
神のをふ赤帰をくくる法師ふ　卜枝
人のうくふあくくくくをををを
ふをくをれをくを

京ををくくふをれくくうう一問　白　荊蹕
湯倉の安国論寺あて
をふくくを湯や寄うう赤ふるらむ　越人
古寺の雪
野や　伽藍　くくの雪見ふ　荷兮
同
寄形や　うくる　二王の斤　晩　俊似
つくうう寄くくくくれるを一雪仏　一井
新寄をる人のさうや　神くくを　文潤
千観　うるをのをの一年のくれ　其角

藁玉尚七句

如寒者得火

ふくをふうを結ふくを川ををふ　胡及

如裸者得衣

雲のうや湯移於人ふまの　乱

如商人得主

双亡のををふくくをむ　つのくうふ

如子得母

竹ゝて〳〵ゆきてたつゝはけふ

如渡得船

[illegible]

如病得醫

[illegible]

如暗得燈

秋のあやめ[illegible]

神祇

[illegible]　釣雪

二月[illegible]

[illegible]　荷兮

[illegible]　仝

[illegible]　亀洞

[illegible]　昌碧

[illegible]　釣雪

[illegible]　越人

[illegible]　舟泉

[illegible]　雨桐

門あて梅の陽羅をのみ　重五

繪るなる人の後のさくゝ　玄察

[illegible]　鈍可

宮の後川[illegible]　李桃

[illegible]　好葉

[illegible]　玄察

[illegible]　亀洞

[illegible]　未学

川[illegible]　荷兮

[illegible]　尚白

[illegible]　松芳

[illegible]　落梧

若宮奉納

[illegible]　利重

[illegible]　野水

[illegible]　昌碧

[illegible]　村俊

[illegible]　卜枝

祝

肩付とゝのふなりぬ冬ぞ　冬文

荷分る四十のまつ

[illegible]ふ[illegible]ゆるゝ　重五

[illegible]代やゝ[illegible]れきみつ[illegible]　越人

[illegible]ゆ[illegible]沖の石　傘下

[illegible]ふ杖つゝむ　亀洞

[illegible]　同

[illegible]ゆ[illegible]　芭蕉

曠野集員外

維[illegible]花[illegible]ゝ[illegible]市中ふ

[illegible]朝の[illegible]きを[illegible]東四明

[illegible]籠ふ[illegible]花の[illegible]と[illegible]

[illegible]佐川田[illegible]六の[illegible]の山あさ

[illegible]と[illegible]実ふ[illegible]す又

[illegible]

[illegible]尾陽の[illegible]の化て芭蕉翁

[illegible]ふ[illegible]ふ[illegible]の川ふ

田野へ居[illegible]

[illegible]人の中ふ[illegible]の[illegible]

[illegible]ふ[illegible]ふ[illegible]人[illegible]

[illegible]ふ[illegible]

[illegible]ふ[illegible]

[illegible]ふ[illegible]

[illegible]ふ[illegible]

[illegible]

素堂

これ文人のことつのうくことけられし
と三人ゐさ家宴もゑ〳〵
もとさ〳〵かさ仮宴のうけ俳人　野水
橋の跡と志とろふ志の志ろく　荷兮
ゆめ志ゆうちるなてゝ暮うと　越人
門の石月行園のやきゝ〳〵ろ　水
鄙の月利と　初　秋の　亭　兮
武士の磨ゝ川山ゝ志ゝ遠ゝ　人
志ゝりふつゝて滝の鳴る音　水
響ゝり経ゝり出ゝ茶のゝ　兮
はゝゝふられゝゝゝるむゝ面　人
ゝのゝり松所ゝ志ゝるゝ花の縞　水
千句ゝと物むゝ小山のてら　兮
時さゝゝ一宝ゝ梅ゝと咲ばり　人
あてこゝゝかさゝ夕月秋ゝ　水
奇の分い泥のゝうゝあるおゝ　兮
秋とゝろ小ゝゝ登ゝ人の毒　人
鳴るやら西と志ゝ陸の声　水

さひゝうなゝゝる利根の川舟　兮
その月ゝてゝゝゝゝてかさ墨　人
孔ゝりゝと明織ゝち志ゝ　水
ふゝくゝゝきゝふの市の渡いれさ　兮
狐ゝさゝや人の足ゝる ゝ 蓆　人
柏本の御気の比のゝゝゝと　水
さゝやくゝゝのゝなゝゝゝる　兮
月の気より今ふゝゝ辻相撲　人
秋ふちるゝり里の酒と夢　水
雪ゝゝゝれ歩移ふ歩ゝる芋ゝて　兮
うれゝゝゝゝゝふの石絞の茅　恨　人
かゝゝゝまる謙ふ涙ゝ届ゝゝし　水
火箸のゝゝゝゝまのあつゝゝ　兮
ゝくゝゝのゝゝゝゝゝ人のゝゝゝ　人
ふゝゝゝゝて池のかゝとゝ　水
花ゝゝゝ都ゝいまゝ宝ゝ　兮
旅ゝゝゝる幸加恠ゝ架　人
墨ゝ見ハ西月ゝふゝゝれつ　水

大根さゝらゝ干ホいてそうし　兮

[illegible]や[illegible]ものさを測るて　亀洞

[illegible]の舟[illegible]酒の[illegible]　荷兮

[illegible]やゝ[illegible]酒ホ[illegible]と解く　冒碧

百[illegible]の懼る茶[illegible]きはけて　野水

夕[illegible]のきの白さとうち流　舟泉

[illegible]の蓑を[illegible]引きせ　釣雪

[illegible]の[illegible]ゝ[illegible]ぬ所を　筆

一[illegible]ゝて[illegible]と　古綿　亀洞

[illegible]の[illegible]ゝる[illegible]麻　荷兮

朱[illegible]ほとおりホ　幸　茶　冒碧

[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]　釣雪

湯[illegible]の[illegible]ゝ[illegible]　舟泉

[illegible]ゝ[illegible]ゝる川の[illegible]也　野水

たゝ[illegible]ゝ[illegible]　荷兮

秋風[illegible]車の[illegible]と　亀洞

[illegible]の法[illegible]　釣雪

[illegible]ゝ[illegible]ぬ花の[illegible]　冒碧

八[illegible]山[illegible]　野水

日[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]　舟泉

[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]　亀洞

[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]　荷兮

[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]　冒碧

[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]　釣雪

[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]　舟泉

[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]　野水

門[illegible]ゝ[illegible]　荷兮

[illegible]ゝて[illegible]　亀洞

[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]　釣雪

[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]　冒碧

[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]　野水

[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]　舟泉

[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]　亀洞

夏の[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]　荷兮

[illegible]の[illegible]ゝ[illegible]　冒碧

人なこふ紅葉さして花ふり　釣雪
ついこうこうふ蔦る　精進　野水

菜しき鍋うき　くくと麦の穂　舟泉
柳のうらはこのまきりの卵　松芳
夕の月くく深田こうこうとくくもん　冬文
ゆふこうこうやうこうこうる月新　荷兮
秋菜のとてもなこう徒咲こうこん　松芳
うはきこうこうる　捨角力とて　舟泉
きふかの文めの捨こんこうこうる　荷兮
ふまくく砂の中の赤紙もしく　冬文
火鼠の皮の衣とこうるきて　舟泉
後人せしこうこうの紙はいく　松芳
こうこうう路こうこうしてこの蔦ふる　冬文
国の半こう脂ものこうこうこうこう　荷兮
蔦こうとは紙もせ反口をこうき　松芳
よまて双紙の絵とこうふこうる　舟泉
なのあるもこうこうこうる花の良　荷兮

身のあかろや龍香井の底　冬文
灯こうもとはかひつくこうるの風　舟泉
孫数こうこうくく拍良のうえ　松芳
陸辰こう八幡こうあのこうこうて　冬文
十日のきくのこうこうこうるのこうり　荷兮
山口の秋のくくこうこうこう　松芳
出持買こうこうの色るやこうこう　舟泉
ざくくこうこうこうこうる月の新　荷兮
馬のこうこうこうこうこうこうこう　冬文
こうこうこう蕎丹の宮のこうこうの　舟泉
延ふまこうこう蕎麦あふこうこうの　松芳
くくこう掃こうこうこうこうこうこう　冬文
あこうこうこうこう提醤ふよむ　荷兮
けしの花こうこうこうこうこうこう　松芳
味噌こうる言の懸こうこうこう　舟泉
芳香の門こうこうけこう蔦分　荷兮
次第くくふこうこうふこうる　冬文
美の鉢赤貝こうこうこうこうこう児　舟泉

散そふかるる花の枝ふりもきらきらきの瀑布とかふるとそ　松芳
冬文
ゆらゆら面白き　山くらの雪　荷兮

ほとゝぎす待あの野の野中あり　荷兮
面のわるきをふとてる戸の口　野水
引捨し車ハ琵琶のかさきふて　仝
あるさうの雪ふる人のうしろのひ　荷兮
月の秋藤のまさきふ出るまり　仝
一荷にあひし家のきくらもや　野水
卯あしもつぜの寮の湯ゆ丸　野水
葉細ふもれとよるうの雲うり　仝
土肥と夕くふうさよせく　仝
京判おとをゆてものうき　水
通路のついをとけて迷ふ　仝
六位ふあとし高のうさ　兮
代まわりくもちくふ侍ひく　仝
淺き雲ゆ鍬一ふし　水

雨の雪ほきふいそ春　仝
花咲ゆうと　仝
天仙蓼ふ冷食あさし夫の雪　兮
うもかひけと着経の中　水
たゝ人まつて寒ゆうちもも　仝
白せそしき酒ついてやる　兮
弱のやと吐りふ法ふ甲斐　水
秋のあしうう昔澤湯陽　兮
ゑてくもよふふ生身魂　水
八日の日のをきとるまく　兮
山の縊ふ松と根とのの風ちる　水
きはきたをくくくまる　兮
暑き見腹のをきのうり川原ひ　仝
太鼓たゝりゆ階子はるこの　水
ゆくくと春なる水賢の神枕　兮
気たてのようとと聟ふ初しる　水
思ふ人ゆ春あく一二年　仝
庇とつまくもまひうのをぬ　兮

三方の数むかしにかはる　兮

供奉の菜麹を咎へきこみ　水

涼しや小塩大原嵯峨の花　仝

人ならふゆくはるの川岸　筆

風しのわさ業ミハ芝の異さをと
なくおるかりしろさに柄と傍らくらて
よ紀国と宗灃法師の句とをもし
殊ぎに夜の秋の庇しいよおもわらう
流しやをきつさぬ

月に柄をさしたらばよき団かな　越人

昼のとそうり夢の秋の庇　傘下

さつらを流す茎くくころやらん　仝

おやひらけれきうせふさのそら　人

高麗きらしらつくおきへてよのかり　仝

使の老り遂るやまくもる　筆

何れるまと猫の子を選るさめくに　下

ささるるまてあちうあうらうと　仝

とらてやらまの節穴をてわらひ　人

ますおもくげに泣ちら子の角　仝

大勢の人に法華をこれされて　下

月の夕より筋縄らう川　仝

冷に柿を又くらふ柿は皆渋し　人

秋のうしきれ畑見る客　仝

わらましにかつら此世を背くさ　下

森あるく書く文字の如くむ戸　仝

花の影ふららんうゆるる漢落つ　人

武力の翔のこちきまうせ　仝

うちも洗て浦の苫屋の塩干そよ　下

風にちらって花は憐る犬　仝

砕さらんのあれ隣にさ比丘尼や　人

たらきのつかるる面のふうとし　仝

平合稲古藻首まおらしき　下

ますく献立のうれちいひき利　仝

灯籠の波たかわして押うくし　人

納とおくせきりうくを記

ふく風ふるさとのふらくこと　人
半ハとそ千　藥やまの　秋　下
ひつくとはらる就の秋あれて　仝
人の清みをとこのちの　人
あさいく仏の道と為ひ迄　下
千せう夢のこ後くふ町　中　人
おろくとふ法の宿の宮時分　下
皆同者ろ　卜　金　佛　人
百万もるひあとの秋の夫　下
田樂きれてさくゝ賑き　人

深川の秋

屋ゐ屋ゐ月ふ世ゐ月ふ　越人
海ふひ　あらふこの　はの　芭蕉
蓑とうま雑窮宮ふめてつゝん　仝
理とれ月ふる秋の名ふれ　越人
瓢簞のたきさみ石とうゝ　仝
風ふふ月とくこの色ふる市人　芭蕉

たふとふ長安ハ色名利の地　仝
鬢の花ふとて月ふ紙ふ　越人
いとくと師色の宮ふ　芭蕉
ふふ世後やく寺の経とう　越人
此甲ふ古さ言葉の名とつく　芭蕉
号殺もろせぬ雨のあけぼの　越人
きぬくやあまりかわふ　芭蕉
風ふさたまふ寒のうつくし　越人
ものて宮の西結ふ　芭蕉
和ふとふさふ後ちけ雪　越人
月と花比ふの言ねとゆゝく　芭蕉
言葉さく　つるふの肌ぬき　越人
酸とと戸の行ふ身る春の末　仝
ひとふふさふ麦のひさとう　蕉
家孔とて腰ふつむ一寸後　人
ものおひみる沸子のあれひ　蕉
人ふくいまと所の白ひる　人
初雪ふ籠る堂の斤隅　蕉

[illegible] 人
[illegible] 蕉
[illegible] 人
[illegible] 蕉
[illegible] 人
[illegible] 蕉
[illegible] 人
[illegible] 蕉
[illegible] 人
[illegible] 蕉
[illegible] 人
[illegible] 蕉

[illegible] 其角
[illegible] 越人
[illegible] 仝

[illegible] 角
[illegible] 仝
[illegible] 人
[illegible] 仝
[illegible] 角
[illegible] 仝
[illegible] 人
[illegible] 仝
[illegible] 角
[illegible] 仝
[illegible] 人
[illegible] 仝
[illegible] 角
[illegible] 仝

[illegible] 人
[illegible] 仝
[illegible] 角
[illegible] 仝
[illegible] 人
[illegible] 仝
[illegible] 角
[illegible] 仝
[illegible] 人
[illegible] 仝
[illegible] 角
[illegible] 仝
[illegible] 人
[illegible] 仝
[illegible] 仝

[illegible] 嵐雪
[illegible] 越人

[illegible] 仝
[illegible] 雪
[illegible] 仝
[illegible] 人
[illegible] 仝
[illegible] 雪
[illegible] 仝
[illegible] 越
[illegible] 人
[illegible] 嵐
[illegible] 雪
[illegible] 越
[illegible] 人
[illegible] 雪
[illegible] 越
[illegible] 人

[illegible] 野水

日のみしらるること冬の朝霜　落梧
山川や鱈の骨ものとさらすらん　仝
紙とをるうるるくうるけ雪　野水
おもつくるま押合月ふ草除川　仝
ほうとうとうとうもも穂の萩　落梧
川越の岩ふるるれり秋の夜　水
ねふと痛のる新のきこまれ　梧
うるせことうり形くうるて孫の下　水
ちうるさおるふ此のうきこひ　梧
文う秋の湯いるうるこるる所て　水
こるうう新て相任の燈　梧
岩の松あられうるうを人ふうう　水
焼るるううのふ高蕪さ　梧
高るおるるまの心るも一文ふ　水
ちるいるるふ月のちりるさ　梧
耳や篱やよるるも花の鶏ふ夜　水
具るめるせふうふ初年　梧
いりやらい岩まぬはるふ　仝

山伏行く人おうの原ふ利　水
くくくくと轉めけるる茶車　梧
瓶竹るるる流くくるるる生　水
行るるとを流るん髮を振ひ　梧
ちるくく抑もいるあ法れるさ　水
るるううるるやるるるるふれのせて　梧
かるる斎中と飯稼ふるるもく　水
面やるて重のちるる面白や　梧
柳ちるるやる例の道　水
新ちるくる月るるるれる十間　仝
窮るき秋と如更屋ちるくう　梧
古とよるるりめるるるるるましし　水
乗もるるるるるるるるるましし　梧
新るるの干奥侍るるるるるの酒　仝
誰るるる花るるるるるるるる　梧
ちる白のるるるる作るるるるましし　仝
ねるるるるるるるるるる春明るる　水
　　　　　　　　　　　　　　　梧

一里の炭賣いひ問ふこゑ　一井
かちひの先は龍歩　芥朝　嵐蟬
さゝくれや二ツ木を引ふ後ふん　胡及
扇右衛門を問ふ酒ふ売ふ人　長虹
夕月の入きゝ早き　塊きゝ　嵐弾
たゝゝふ郷とつのゝゝ　ゝむ秋　一井
里ふゝ　躍　ゝ二三日　長虹
文月ゝ素ゝゝれらもく憂　胡及
問ゝれゝゝ涙ゝあの言ふゝ　一井
著籠ゝゝく切ほゝく文　鼠弾
ゝゝゝゝ庫紀ゝふ陽ゝゝ　胡及
きゆく秋半の雑の雲　鋤　長虹
なゝゝゝよゝゝあひてゝ歩笑ひ　鼠弾
給とゝを　如中ゝ　一井
消風ふ径ふきまゝる月孫し　長虹
みゝもゝゝゝ紀伊の玉魂　胡及
ゝ老のゝゝ笑射てゝる弟の浪　一井
森ゝゝふ雪ふゝゝけり　嵐弾

はるのゝれあゝきくも暁ゝゝ　胡及
紙子の綿の袖ゝ蕎川く　長虹
ゝれしまる問ゝきいくゝ　鼠弾
ゝ蕎なゝある故ゝを　一井
ゝゝゝふあゝゝゝしし松の枝　長虹
拝ゝゝる人くゝ乃奥　胡及
此年ふゝゝ奥の踊ゝ　一井
ふゝゝゝふつい蕎ゝる月　鼠弾
蕎ゝゝく陸ゝの陰のゝゝ　胡及
ゝゝゝゝゝふゝゝむ蕎の実　長虹
市ゝ縁入道のゝゝゝけふ　鼠弾
ゝゝゝる人のあゝ　一井
毒ゝゝと瓜一きれも答めし　長虹
戸風　ゝゝゝゝる白面　胡及
板ゝゝく破ゝ板ゝ　一井
ゝのゝけゝる　ゝ丸　嵐弾
めくくゝとりくのゝれぬゝ　長虹
ゝゝゝれてくくし　胡及

炭俵序

此集を撰める孤屋野坡利牛らハ常に芭蕉の軒に行かよひ庵の窓をひらき心の泉をくみしりて十あまりなゝの文字の野風をまけ夫あん家事也霜降まそとけゝ何をまかせる秋こゝに二三子庵に待く火桶にけし炭をおこして庵主これに口を除とけ宋人の手亀まらさるといへる薬もなかんや志れゝ新署に燈のさしめなるを思ふにおさき様になかめつゝ金屛の松の古さよ冬籠と云よりまろいひける事のこゝろふる年に入ぬくもらつるらの炭俵のめその色に魂のまよひくるゝにやこゝをとさらにこはるの日ののりと物しよりて秋の月ふりくらしつゝふけつゝや吟詠の篇ありて竟に何あつめられ二十にわりとふん是をひらさるゝに有邑の縁を一何やらんそとされハ文

しるき炭の筋をえりけらしとも聞えしを
かく付侍るは詩の正義にいへる五川の
流れあるはやまとの哥のさまにひとしくは
はらゝと例のはしに任せらるゝものともあまの
竊にかくぞうけたまはりつるよしなからひと日芭
蕉翁旅行の首途に深川の菴に携へ
て再會の期を契りし此川此集の事に
ふてかれ此竃の秋をりし火桶のなかより
さるき炭のふる寿をとらぬぞしつらむ例
つゞに炭たはらといへるは誹也としと
りしるしるを小子にあたへてよのまゝしとひろる
かや時の花をそろへ蝶と成りけりこの心
かて早く序書てよと云梅くやのみ
ぬ今此みそのつかへを初めとして紛
おほつかなしたりゆく人とつくりし焼ふ
はあしくもちりとながめむ

元禄七の夏閏五月初めの日　素龍書

梅が香にのつと日の出る山路かな　芭蕉
処々に雉子の啼たつ　野坡
家普請を春のてすきにとり付て　仝
上のたよりにあがる米の値　芭蕉
宵の内はら〳〵とせし月の雲　仝
藪越はなすあきのさびしき　野坡
御頭へ菊もらはるゝめいわくさ　仝
娘を堅う人にあはせぬ　芭蕉
奈良がよひおなじつらなる細基手　野坡
ことしは雨のふらぬ六月　芭蕉
預けたるみそとりにやる向河岸　野坡
ひたといひ出すお袋の事　芭蕉
終宵尼の持病を押へける　野坡
こんにやくばかりのこる名月　芭蕉
はつ雁に乗懸下地敷て見る　野坡
露を相手に居合ひとぬき　芭蕉

町元の法うと解くく花の陰　野坡
門〳〵押る〳〵壬生の念仏　芭蕉
赤風のせふ農のさん義哉　仝
ふく居るまふ脱わ川ら幽　野坡
江戸の去右ひうひの春と見られて　芭蕉
うちれいれとう〳〵西と　野坡
方〳〵ふ十枚の内のうるの春　芭蕉
相のあるくく月さゆるあると　野坡
門ちちく〳〵ちつてねく〳〵面白と　芭蕉
ひろふと全て表　この人とる　野坡
ちつ年ふ女房のあやて振舞て　芭蕉
又このうを陣　ぬ宮　人　野吸
法界の湯治と落る花さうり　芭蕉
縄まとうく〳〵まを表の如く　野坡
との気もあの方ふ宮とあけ　仝
夏ふ咎あくてまの雑炊　芭蕉
ふ雪降一枚〳〵ふ雪ふれうり　野坡
未をの雪のしてぬ暮　用　芭蕉

隣へを初らせて嫁とつれて来て　野坡
展風の浪〳〵うゆう夢ふ盃　芭蕉

三吟

君婦を蓮おり〳〵花さうり　嵐雪
あさみや苣〳〵崖翁ゑる　利牛
斤道そきの山坂のくまりて　野坡
和とちまくふ明ふ相撲場　嵐雪
砌〳〵と朝日〳〵の宵の月　利牛
早稲の更稲と相生ふ出る　野坡
泥深を出さ流〳〵のきたる　嵐雪
いちちちれい豆のうるり　利牛
備〳〵弟〳〵嫁と爲ふ来る　野坡
てふく〳〵と参るういわり　嵐雪
慈石のうちふ弟妹聖護院　利牛
お百のうけを二百ふ元　野坡
涸めさのいがのふある音の上　嵐雪
人のうちらぬ松〳〵つむ　利牛

町元の法ろうと解くく花の陰　野坡
門〳〵押る〳〵壬生の会　芭蕉
赤風のせふ農のさん義　仝
ふく居るまふ脱ぬ川ら鶴　野坡
江戸の去れひの寿ひを見られて　芭蕉
ろうれいれとう〳〵阿とこの　野坡
方〳〵ふ十枚の内のうるの寿　芭蕉
相のあるく月さゆるあって　野坡
門ろう〳〵ふうつてね〳〵面白さ　芭蕉
ひろふと全て表この人もる　野坡
ろう年ふ女房のあやと旅姿　芭蕉
又このろを陣ぬ宰人　野坡
法印の湯治と笠るの花さくり　芭蕉
縄まとろう〳〵まを表の如く　野坡
との気もあの方ふ宗とあけ　仝
東ふ巻あくてまの雑炊　芭蕉
ふ雪降一枚〳〵ふ雪ろれう　野坡
未を寿のてめ茶用　芭蕉

隣へを知らせを嫁とつれて来て　野坡
屋風の虎〳〵ろゆる第ふ盃　芭蕉

三吟

君好を蓮おりろを花さくり　嵐雪
あさみや苣〳〵雀鯖ろる　利牛
斤道をまの山仮のくまりて　野坡
和とちまくふ明ふ相撲場　嵐雪
砌〳〵と朝日ろうの宵の月　利牛
早稲の晩稲を相生ふ出る　野坡
泥深をまを流れのまを　嵐雪
ひちろまれい豆のうるれ　利牛
備〳〵第〳〵嫁と笠ふ　野坡
てふうく〳〵を参るういわり　嵐雪
蓮石のろちふ第寄聖護院　利牛
お百のうけを二百ふ元　野坡
洞あさのいぶの法ある寿の上　嵐雪
人のさをらぬ松ろうむ　利牛

新夜の秋とりせて日のくれて　野坡
股の中なる芋を掘る月　嵐雪
湖とる窓やそらくあきの外　利牛
雑炊みくもる又鼾このく　野坡
きえのくるしき影ふ垂ゆく　嵐雪
抱揚るるの小便をこぼす　利牛
くくくくと河内の長の和泉を　野坡
ゆくらくるる著のせんくく　嵐雪
響き易く娘の世とい笑ふ　利牛
こしのくるあいかとと笑ふ　野坡
重佛の細をかくをこぼるる　嵐雪
はくいるいの小なるこれよる　利牛
乘の頼いなしに風ふ吹例也　野坡
る場の空嘯の沈ふきむ月　嵐雪
井とくくくくくくて人ふる　利牛
今丁底のくちいわるけも　野坡
費ふくくかてくるたる紀紙　嵐雪
ひらくくくとやきのふくを出く　利牛

稲食の後きくせくくを乾らるる　野坡
うくくくくのくるきふ細川　嵐雪
神行る抱とをくくて花の陰　利牛
まくくくのくる西月の解　野坡

ふ川ふまのくく
室室のふ笠ふくく麦の紙　孤屋
室室のふ鶯のくしる麻川　芭蕉
と浪を室くくふくの室て　岱水
くくとのくくけと河の家中　利牛
春ふくく浮ふねてふ宵の月　芭蕉
くくくと壇のくくく秋風　孤屋
ウくくくを義のくくくくて　利牛
隆の竹くくの山夫まるまり　岱水
妹をくくくくくからくく　孤屋
傳郷のくくまくくくとやる　芭蕉
風細くくくくくくくくの　岱水
京のくくくくくくくくくくくく　利牛

綴汁ゆへ老よりよくなるく　芭蕉
茶の雲雪を作るく雲出を　孤屋
この夕ふくらみ花の静かな　利牛
う紙〳〵柳を今ゆふ〳〵　岱水
雪の跡ちら〳〵ある鶴の母　孤屋
ふとんもけ〳〵もれぬ冬屋　芭蕉
不届な濃と中のわるうろう　岱水
ちつち坊をとゝく、あゝを　利牛
法るものひそうふ出ぬ〳〵　芭蕉
至ちを至ゝるわみと見ぬる　孤屋
花のまゝふきんてぬれい汗ゝ　利牛
寄と送ゝく　挑る　炬　岱水
今のまふ雪の雪さと物てゝる　孤屋
逢貢ちんとゝあら出ふゝう　芭蕉
息笑ふ徊ゝのゝてゝゝ作よ　岱水
蟬出ちゝめ七夕の　利牛
春月のまふ合せゝゝ芋畑　芭蕉
ちゝ〳〵言ふて花〳〵蕎麦　孤屋

これゝろい常の垂ゝふうすちはじ　利牛
山の根源の紙のそう形てて　岱水
よゝ垂ゝふそゝ〳〵風の吹出て　孤屋
晩のゝ〳〵ひゝゝゝゝゝ　利牛
花ゝ水ゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　芭蕉
余のゝ作ゝ〳〵ふ葉ゝゝゝ　岱水

芭蕉　孤屋　岱水　利牛

各九句

百韻

ふゝ裸ゝてゝゝて早苗舟　利牛
岸のいゝゝの芸白ふ咲　野坡
面あゝ塔殿を婚の作ゝて　孤屋
ゝ力町ゝ村ゝ麦ゝ　利牛
竿竹ふ茶ゝの納ゝゝゝ　野坡
るゝ鏡ゝてゝゝゝゝ人　孤屋
芸の月千芸の蕗付ゝ　利牛
柳ゝ孫ゝゝ檀ゝる　野坡

ぢめよの中てよう少しうほあり　孤屋
坊をうあれとやまう仁平に　利牛
松坂や矢川へもいるるうらあり　野坡
吟うう　勝もつうう雪の後　孤屋
十二三年の衣裳のあてうひ　利牛
市雲そしる者もとうくく　野坡
日のあうる方にあうらむ竹の色　孤屋
兵衛の素さうう　口もうくしうふ　利牛
をいはのうらの紙をすあわく　野坡
天氣の相を三日　月の照　孤屋
生なうう歩ふ事迄かしこ淡　利牛
様の実為る原根うくるし　野坡
学夏の虎り連をう花うり　孤屋
市乳供ううの人のそとつく　利牛
ほうくと二日夏のいほひ出　野坡
ようくあへの猫ふうわるく　孤屋
なの紙と振くうもうもあ苗ひ　利牛
者祖の糸をまふつうを　緑　野坡

俊くふ西国武士の高のうくひ　孤屋
尚きのくよう今りう大　早　利牛
切蜆の答例しうる楼うを　野坡
うをう納豆と仕巡度を　孤屋
疇日をまきうう色とも　利牛
茶てをけうる下紙のをうき　野坡
つをあひの色をゆうくふ　孤屋
ようりの裏のをうき井のあや　利牛
うれの母樽ふ負ある古　野坡
をいうくの長のあまるうをい　孤屋
ひいうをうと色いうをう　利牛
戸てうううしふ風呂の原根　野坡
代遥を根と稽のをうれあひて　孤屋
赤いふ矣ハあうらしき内　利牛
濱をを宿の男の高とうへ　野坡
師を仕丘尼の紙のをきさよ　孤屋
麻稽の紙を年くく買うくく　利牛
天漢の状をまうく言れうを　野坡

廣徳をうつふひろまる紅の若　孤屋
むく新ちて氣ある　紀　吉　利牛
燃きさる義と成あふ指くく　野坡
十四又面のふりまいしまる　孤屋
月花ふかさあけ城の行えう　利牛

三

桃　孤屋
陸奥　このへこて座ふ新ちう　野坡
ふ豆のさくの空雅なるらと　利牛
孫塔ち脱さる豆と投却ちく　孤屋
縮の陸うけを含入てえる　野坡
素畑の碧地ふ浪る榜ふ杭　利牛
愛あを志ちを新政の承　孤屋
初毋と子結ふなれいたくふ　野坡
又は唐の古若いもく　利牛
波を寺のうふよれい二る流　孤屋
くいくんうく寂しううを　野坡
落雪のうまのふ初まと塗也し　利牛
一つくあうふ能の雪　傷　孤屋

○炭俵

渋さしふ藏川ちきる新の月　野坡
なめちくよらる裏の絶あくい　利牛
めと絶て空狂ふ心ちる時の春　孤屋
又うのみして笑流たようきく　野坡
かうさ流ふ中の己のりとまつる　利牛
入ある人り味噌豆を出ち　孤屋
ちちのひふ赤線　拾の新田川　野坡
山茶屋の又ある宿の夏つく　利牛
ほやくくとうんとほうちきれ　孤屋
ふ茶ふ線まーる熱　汁　野坡
茶の内川藏て居る　櫻ちち　利牛
風雅り志る延半ちよく　孤屋
初ちうるうくく時の夏の春　野坡
入ふて〳〵月の亡　身　利牛
拭うくお上の茶屋ひうち春　孤屋
書云つる　祠　こうかひ　野坡
大ふのあげくふ畑の砂のうく　利牛
河年菩提し色成杨の末　孤屋

[illegible]と継　野坡
丸九十日渥を[illegible]　利牛
[illegible]　孤屋
[illegible]　野坡
里離[illegible]　利牛
[illegible]　孤屋
[illegible]　野坡
[illegible]　利牛
[illegible]　孤屋
[illegible]　野坡
[illegible]　利牛
[illegible]　孤屋
[illegible]　野坡
[illegible]　利牛
[illegible]　孤屋
[illegible]　野坡
[illegible]　利牛
[illegible]　孤屋
[illegible]　野坡
[illegible]　利牛
[illegible]　孤屋

[illegible]の[illegible]　野坡
三人[illegible]　執筆

春之部發句

立春

[illegible]の初便　芭蕉
[illegible]濁る　杉風
[illegible]　去来
[illegible]　京　西鶴
[illegible]　大阪　洒堂
[illegible]　岱水
[illegible]　沾圃
[illegible]　孤屋
[illegible]　利牛
[illegible]　野坡

梅

梅一本[illegible]の姿[illegible]　露沾

うめ咲や臼の挽木のよごれまで　曲翠

梅か香の筋に立よる初日哉　文考

宮のうちもとえんとこらく　伊賀　土芳

梅ちるや糸の光の日の匂ひ

うめ咲て湯殿の崩れ直しけり　利牛

赤みその口を明けり梅の花　游力

みちのくへ咲ころつゝと梅の花　野坡

此梅ハ娘もまかる宿戸かな　杉風

ちかきころのわびしさをさそく

としよれば藪に身をよる薺かな　其角

七草や粧ひしかけて切刻ミ　野坡

うちむれて若菜摘手に後もなし　仙杖

洛よりの文のはしに

朧月一足つゝもわかれかな　去来

大原や蝶の出て舞ふ朧月　僧丈草

ねやの月まくれさま女郎中に　仙花

深川の会より

長閑さや窓の影りもこゝ一　利牛

十五日立や睦月の古手賣　之道

猫の恋初手から啼て哀也　野坡

ねこの子のくんづほぐれつ胡蝶哉　其角

鶯

うぐひすにほうと息する朝哉　嵐雪

鶯や菜をとしくんあすの文　其角

うぐひすの声に起行雀かな　桃隣

鶯や門はたまたま豆腐売　野坡

鶯の寝所ハ会を入るかな　利牛

柳

こねりとれつらて植し柳かな　湖春

隣家こし月のあひたる柳かな　素龍

ある人枝おりとりてきたる枝に　野坡

せきれいの尾ハ見付たる柳に　一風

町中へきてまる宿の柳かな　利牛

傘に押わけみたる柳かな　芭蕉

椿

土えてに羅にちりし椿かな　孤屋

枝もく伐らぬ梅を　梅の郷　湖春
金みゝ〳〵ふくのつゝ行む　梅に　曲翠
張りこゝろめみをく花梅　嵐雪
ものねを活を家法の赤梅　文考
はき掃除〳〵梅盛ふくり　野坡

花

うへ鉢の花ふまのの行〳〵
くく暮れ行きかの書ふく
乃春はまく〳〵ふくふるかゝ
の松のうをたのみく　芭蕉
四川六義の秋をあ花を　杉風
やら〳〵四て花のをつめ〳〵　文草
うく〳〵ふて花のの名を居ふ

柳〳〵の枝の長の
花ふふ行〳〵　素龍
中ふを五五お意の花ふ　去来
花をやや白きう〳〵を家あを世
朝め〳〵の陽と斤樽や庭の花　孤屋

荊口　斜嶺　北枝　湖春　其角　嵐雪　智月　大阪之道　祐甫　普全　利牛　孤屋　野坡　仝

行をとゝ云花をの者のく〳〵
たの鳥てとゝめく〳〵いをく花
柿の加茂沼名ものを垂行や花の中
牡丹をく〳〵も花をとゝ
あくなりく弟ふみ戒の搖うを
花いよを毛中ふなく〳〵赤搖
ふくくをちやふ小川の名車　大津尼
老僧を袈裟ふきくる花花
沼毎を花ふ陣数くるを生活
山くく〳〵小川あくを
昆布〳〵や花を中のつ庫裡坊を
なつきい美盛まをやや搖の
おうくる梅てふくや　蓼一所
をまく〳〵あをくり乳くて花花
食の附をれつまるや弓をくく

上巳

菖蒲を小川のをくく　沾千　沾徳
をあふををくやうくの柳の花　挑隣

このころの枕はいつもの色こそ枕の雛　其角

鬼の子に臑と見るまで雛かな　美濃 如行

日半路を照られて来るや桃の花　野坡

麻の種毎年蒔くや桃の花　利牛

藪垣や馬の息つく椿の花　孤屋

青柳の泥にしだるる潮干かな　芭蕉

題しらず

淵つけに命をちぢむ小鮎かな　洛嵯峨田夫 為有

春雨や蜂の巣つたふ屋根の漏　芭蕉

菜のとるてしの薬や二三本　子珊

はるかしき[illegible]み稲門のつきあかり　伊賀 猿雖

青の野や蝶の寝る屋の風の末　猿雖

早蕨やまだ若草の春の気に　仙化

旅行

法度場の垣より内はすみれかな　野坡

此集いまだ半ならざるに孤屋旅立事有けるに

何事も平沢川まで見おくりて　野坡

青き野にさくらふる月なき別れかな　利牛

夏部之発句

首夏

短夜の裏返し見し衣のえ　嵐雪

さまざまに十日もたてば花の頃　野坡

緑とはいかに疑ねばせぬしまた衣更　九節

岸より出てこれまでの日や衣へ　雪芝

花の揺れいにしへのしのぶ心の袂より　子珊

前の畷の白し衣かへ　利牛

うの花

卯の花やくらき柳の及ごし　芭蕉

うの花の絶間たたかん闇の門　去来

旅行

卯の花に葦毛の馬の夜明哉　許六

うの花に啼ある人の文とぞ　支考

題しらず

椊の家も見えにけり[illegible]　湖春

髭宗祇池に蓮ある心かな　素堂

うくひすや竹の子藪に老を鳴　芭蕉

郭公

宵まてハ二階に寐さりほとゝきす　桃隣

ほとゝきす一二の橋の夜明哉　其角

行燈と月の間にほとゝきす　嵐雪

桃竹の雲に絡あしほとゝきす　杉風

木かくれて茶摘も聞やほとゝきす　芭蕉

まつさきや鼻おしつける郭公　素龍

聞る鳴く風の方になる子規　利牛

子規顔の出されぬ格子哉　野坡

麦

柿寺に麦穂いやしや繩たれ　美濃 荊口

麦の穂とともにそよくや荒波山　千川

麦跡の田植やおそき蛍とき　許六

翁の旅行を川崎まて送りて

刈こみし麦の匂ひや宿の内　利牛

別れし時

麦畑や出ぬけても猶麦の中　野坡

みなとにて

浦風やむらかる蝿のはなれきは　岱水

端午

五月与や傘に付たる小人形　其角

さうふ懸てみはやさつきの風の色　大阪 洒堂

五日とくにきこえうめのあゆみに　桃隣

文もなく口上もなし粽五把　嵐雪

みとのやハ菖の冑さして甲かな　仙花

帷子のもくろみさめる袷哉　素龍

夏旅

並松をみてかく町のあつさ哉　卧高

枯柴に昼かほあつし足のまめ　斜嶺

二三番鶏も鳴しハあつさ哉　長崎 魯町

はけ山の力およはぬあつさ哉　猿雖

駿河路や花橘も茶の匂ひ　芭蕉

五月雨

此句ハ縁目よりの便かり

はこそれやうかりく鳴る丸木橋　素龍
五月雨の長や淀川大和川　祝隣
さくれ木少納言とはきるる水ばかり　野坡
五月雨や雲の峯より出る薊薩（アザミ）　嵐蘭

この白い根清よりうせてしぬ
五月雨や鮎を抱し小の字　岱水

涼

川中の柳あるよりとろみぶ　芭蕉
身新しくうくく高水や素の声　女う角
涼しさよ蛾ふまうとうる竹の枝　長嵩　狩七
り蛇とおひてくらせる洗ふ　探芝
蛾風ふきそれて涼しみ絵の夢　智月
きくさとされて柄杓の水乳　備前　凡峯
涼しさや淀洲のうへのはたくく　去来
夕きくさいかれさ石ふのわりうう　野坡
こり月の陸ふてきくむ素うれ　素堂
蛍くらて
猫や寝れ机のあるところ　杉風

世の中や年貢畠の芋しの花　西秀
ふかあるくてらくる蕎麦ぶ　里東
やまかきく巴を出る因植ぶ　嵐雪
蕎麦わや面陰くくぬ蕎の新　許六
くく山や人ときめぬけるみ　智月
晩のめとはまさせよ蓮の花　北鯤
面白の面まころのるうの蕎ぶ　乙州
蕎麦ーー面の夕やふ葵　丈艸
一いきれ蝶とうくく蕎麦ぶ　仙花
ふうくる蝶くく蕎麦小　楚舟
秋の牙ふかける都ふうま　美濃　嵯峨　残香　為有
蕎麦結町のあ川さう邪　怒風
けくくさい蝶の柳や雲の峯　祐東
一枝はまけ水さ竹の蕎麦ぶ　仙花
牛のみや巴の蕎麦きの蕎しき　嵐雪
さくくさ人僕う酒とたしむくを

かくかく戒やのかくかく諸もつむきつるか
ある今ふる是とちくちくかくあくき
いくもりなくこゑあるかきうとれもて
あくせられ々まつこゑ汗をつきて
ちくく酒くりゑのくくあ門さき　利牛
なる人の別墅ふいさかなを五月
お和くおくくしくるつくゑ外の
うくとなるる出くくくくくや玄丸蕎　野坡
ひくをねてるくくくくや玄丸蕎　野坡

蘿く部

秋のあくれくれくの
中ふ月と殺くけ候の序
とえくくを

名月

明月や子ちちてもなぬ行てよくく　湖春
名月や椒くりまいも乗の虚カラ去来
京買くくくくくる月衣ふ荷兮
名月や淮吹紀て表の婚　洒堂
松陰や生紅ヒイラ揚くり江の月之　里来

ちちの猫のくくよくくの月　利牛
おくくり川水ちをくくの月　其角
むくくの仲秋の月くくめて
元禄くくを蓑の不を蔵ぬと
明月や不二ちるくを駿河町　素龍

七夕

延のくふ松付てや星むこうく　其角
星今くかくくくおやこのや絵　孤屋
七夕やかくくくくる天の川　嵐雪

盂蘭盆

くくきくふかけくくく新やおまくり
碍るくくほくくく解くくを盆の月　江及　洒堂
盆の月おくくくくくくくくくくく　李由
　　野坡

朝貞

閉関

朝くくや宮ふ後おくくくの垣　芭蕉
相撲やロ備出てくり孫の垣　利合
てくくくくくくくくを術くの松　湖春

秋田

年よれハあつハるるとてきりぎりす　大津　智月
ゆくらゆく人のとまれやおりのくち　文艸
博徳ふくんて義経をぬぎ小　嗤嘲　為有
ふくろをも著て退る猪の上　孤屋

鹿

夜鹿の啼をとゝんるゝ小鹿小　車来
人のもめふくろ
鹿のふむ跡や灰の躬垣形　素龍

旅行のとき

ゆくへ行やもろひをそる鹿の声　土芳

草花

宮城野の萩や夜より秋の色　桃隣
ゆくもゝとゝろくゝちらやゆら崖　野童
庭前の萩や刈ゆて稲の端　猿雖
芦の穂や敷提揚るる夏ところ　丈草
なをは法ゆて
芦の穂ゆ著ゝつゝや岩の猪　去来

女中の華樹ゝゝゝ
華樹や鼻のもゝるる蕎麦　其角

園菊

菓烟おくゝある雪のゝもり小　杉風
結菓をもふ味出て九日小　桃隣

秋植物

林のなるなとゝるものゝゝゝ　利牛
蕎菓や蕎ふなゝゝ蟹の甲　祐甫
秋風や茶子の数のゝゝゝ　木白
葉ふ手て実ふとゝゝく瓢の瓶　孤屋

ゝゝゝゝしの名と南蛮ゝしとゝゝ
うれゝ治世南ん上てゝゝゝ
中ゝゝゝ未詳ゝゝゝ天のゝゝゝ
ゝ八ツゝゝれといゝるハゝゝゝ
とゝゝゝるゝゝのゝてゝゝて
ゝゝゝゝしゝれゝゝゝゝ名目
ハゝゝゝゝれ付ゝふゝゝゝ
天資自然の埋ゝゝゝ恨ゝゝ

うれの竈どうらや右馬ふのせう
是て竹縁のえしのくふまあへ上て
の仕合なりとかまきれハまつきちの
是をこしめ芋のつくつふおつきを
てやねの土つ壁二階のつま細し
のひつけをそのめるおとあやふく
こえ待と朝白のちり祈こまくれ
そハられもくねかたきて大のくい
うつら鳴つり鉢のまはらふらり
うつゝまそ行んお檜の時とうつす
みさられとおりふ合宴蕎の花き
ふとゑあきれおわりくに山川こ五数の
此紅葉の色どとまるを草花乃
頂とをせりかくいつとある人小庇
まうての帰さりみちの経かりの
小春なりこうね一ゑうれし海の
まくしとれとうみのうしを汲を
せしるかりとなそとひめしめる

露霜ふことあらすむのし写のちて
こ此くてとものせをさかりつきん
ゆくく出とをとるのむ露うらは
うきおれこまへりゝまをと小布を
まつらふ

石むしと経かぬうそや夜さるし　野坡
影しるま

あ樸気みしや秋のくらふき　嵐雪

ふ風呂の下やあすの身の秋　丈草

湛ひうりまき涼ねの夜ひのれ　洒堂

秋のくれいよ／＼かるくなる身かな　荷兮

茸狩や一茎(イツチ)草と見ハ焼し哉　利合

夕ぐれのけハ秋しる粟のかれ　文考

くる秋ハ風ばかりでもありけり　北枝

秋風に蝶やあぶなき池のうへ　倡 依々

庖丁の片袖くらし月の雲　其角

冬之部

初冬

風や沖よりさむしと山のきはと　其角
市中や雪ふり捨てふし　桃隣
ふる柿の残り今朝ふる雨　芭蕉
梅ちるや蒲団まくてそうまく　支梁
旅の宿のきれいなやわ雪　斜嶺
刈ごろの麦の根のくさふむ音　桐實
風の蒜ちりまるかれ　残香
和歌や猫の毛ちる　楚舟
風や　眇き　猫の面　八桑

南天　山ふ結ぶ

本柱の形ふきうり　挑隣
幕目ふ雨の蘇後のさむさふ　游力

時雨

芋煮の後ぐ〳〵ちり和時雨　荊口
ふるくり沖の附毎のうろ　文草

芭蕉翁ちり黄屋ふちねぶ
ちりぬほ〳〵今見ふ附ちよ　斜嶺
宵雨とちれい多〳〵しられふ　許六

旅寐のうろ

少ちられとれ〳〵の臼ハ旅ちる　野坡

大根引ちるを

鞠ちふ小物ちちも大根引　芭蕉
煙草とられハ多て大根引　野坡
非送煙ちる雪の古大根　洒堂

ちむさとしのみ多ちる

人ちの根まとちる家ちふ　野坡
この臼ハ先旅ちもさむふ　未峰
雪ちる切ふ吸物ちのさ　利牛

ちもちとちて雪の日　我眉
奥根や延ちちく雪の日　里来

柿の二日ハ川の雪へおちれ
比地ちりの秋のさに雪ちる
みく今ふ物ぬ

雪

ちれ雪ふられとそ新てそく　野坡

[illegible]の[illegible]の鼻をしら　利牛
[illegible]の[illegible]の[illegible]の[illegible]の[illegible]　買山
[illegible]の[illegible]の[illegible]　依々
[illegible]の[illegible]　猿雖

[illegible]の[illegible]の[illegible]の[illegible]の[illegible]　支考
[illegible]の[illegible]の[illegible]の[illegible]の[illegible]　北枝
[illegible]の[illegible]の[illegible]の[illegible]の[illegible]　許六
[illegible]の[illegible]の[illegible]の[illegible]の[illegible]　湖夕
[illegible]の[illegible]の[illegible]の[illegible]の[illegible]　乙州
[illegible]の[illegible]の[illegible]の[illegible]の[illegible]　素龍

歌不知

[illegible]の[illegible]の[illegible]の[illegible]の[illegible]　羽黒六呂凡
[illegible]の[illegible]の[illegible]の[illegible]の[illegible]　芭蕉
[illegible]の[illegible]の[illegible]の[illegible]の[illegible]　許六
[illegible]の[illegible]の[illegible]の[illegible]の[illegible]　智月
[illegible]の[illegible]の[illegible]の[illegible]の[illegible]　之道
[illegible]の[illegible]の[illegible]の[illegible]の[illegible]　文草

庚申やこゝふ巨燈の[illegible]　残香
[illegible]の[illegible]の[illegible]の[illegible]の[illegible]　其角
[illegible]の[illegible]の[illegible]の[illegible]の[illegible]　仝

[illegible]の[illegible]の[illegible]の[illegible]の[illegible]　芭蕉
[illegible]の[illegible]の[illegible]の[illegible]の[illegible]　万乎
[illegible]の[illegible]の[illegible]の[illegible]の[illegible]　野坡
[illegible]の[illegible]の[illegible]の[illegible]の[illegible]　嵐雪
[illegible]の[illegible]の[illegible]の[illegible]の[illegible]　智月

歳暮

[illegible]の[illegible]の[illegible]の[illegible]の[illegible]　杉風
[illegible]の[illegible]の[illegible]の[illegible]の[illegible]　李由
[illegible]の[illegible]の[illegible]の[illegible]の[illegible]　智月
[illegible]の[illegible]の[illegible]の[illegible]の[illegible]　孤屋
[illegible]の[illegible]の[illegible]の[illegible]の[illegible]　猿雖
[illegible]の[illegible]の[illegible]の[illegible]の[illegible]　野坡

芭蕉よりの文[illegible]

[illegible]

ル　素龍

り年よ高くとかすもいかひとり　湖春

俳諧　秋之部

秋の空尾上に松の雛化しそう　其角

おれて一枝海とくるる雁　孤屋

新雁ふ日備松る見咲く　仝

毎のかとく　四亭の門　角

祖父うまの出角七夜なとり　仝

つくひとふい松をこうちを　孤屋

下京い宮法の叢ゆさしられて　仝

坊主の長くる暮いもとしき　其角

見経のあとして居る八ッ時　孤屋

鳥吹うつを　霍乱の汁　其角

田の畔ふ早苗把く投く垂　孤屋

道者のたきむ編笠の前　其角

り燈の月ゆくしたちの秋　孤屋

新ふかの長くくくねの月　其角

移縄子鯉のそそれいたくそ　孤屋

原のちくる武なのあ、　其角

車ての物使桂の花ちち　孤屋

むうのふあり太のたせて垂　其角

いさ白移ちて今のつうひと　仝

之の縞のあくらしき門　孤屋

交差のぶふされて沢れう　其角

なちとい人を小傍いやする　孤屋

年の空寒樹の枝も義ちく　其角

雪ときなくふ風言とまり　孤屋

長くるいそそ汐貝のあふ　其角

稗と粮との氏為つる籠　孤屋

辛崎へ雀のこかる秋の雪　其角

わよう冷新月の手り　孤屋

残燈して居く雪ちう酒の沢　其角

上塗れ小徒くあく鑿　孤屋

名ウ小栗　鑿む氏言よせて名ふり　其角

[illegible]の船　孤屋

孤屋蔵[illegible]出来く[illegible]の[illegible]

其角　孤屋

各十六句

天野氏奥行　桃隣

[illegible]拾ひあつめて巣四ツ小　野坡

[illegible]の蔦る秋風　利牛

入月上板ハ[illegible]の[illegible]　桃隣

[illegible]の[illegible]根の[illegible]　野坡

洞[illegible]　利牛

つ[illegible]　桃隣

風の[illegible]　野坡

[illegible]ふ[illegible]　利牛

年[illegible]者と[illegible]　桃隣

いの[illegible]十日の　野坡

墓所[illegible]寺の[illegible]　利牛

[illegible]の仕合　桃隣

[illegible]の[illegible]　野坡

[illegible]の[illegible]　利牛

時[illegible]月　桃隣

[illegible]月　野坡

[illegible]　利牛

[illegible]　桃隣

人の[illegible]　野坡

[illegible]　利牛

[illegible]日　桃隣

[illegible]　野坡

[illegible]　利牛

[illegible]　桃隣

[illegible]　野坡

[illegible]　利牛

[illegible]　桃隣

[illegible]　野坡

[illegible]　利牛

[illegible]　桃隣

[illegible]　野坡

[illegible]　利牛

[illegible]　桃隣

[illegible]　野坡

京ハ恵別家ニ　利牛

燈ゆふ迫合とる冨田鄙　桃隣

涼を盗んで今日とわてくる　利牛

髪を八雲鳴らす蟬の　野坡

見神まてハ立ゐる入舟　桃隣

ゆてうう茅うゑても花の陰　利牛

ちちも母のふうぬ世界き　野坡

神無月廿日淀川みく貯奥

振賈の居あきたてくえへを練　芭蕉

降ていハ四ちく時雨もるる軒　野坡

蕃薯の櫻の山茶とりつて　孤屋

行ちけ月をうる　利牛

好物の隙を絶さぬ秋の風　野坡

割木の安き国竹雲霧　芭蕉

洞の老迫ちを西ふ寒つけく　利牛

星ちくくくくを二十八日　孤屋

ちくちをハ神ち軍のちちく　芭蕉

渋氣の雲ち雑炊をせめ　野坡

時ちくむ蕪粕竹を伐て　孤屋

肩癖ふちる湯屋の膏薬　利牛

とを金の千素刻もとうの　野坡

馬ち出ぬ日ハ切て煮もる　芭蕉

絹買の七ちちを書つれ　利牛

蟬ち門ある五十石五　孤屋

此湯の隙鬼ゆを拭月竟　芭蕉

砂ちぬくくのちる草　野坡

新畠の糞もおちく毛の上　孤屋

時ちられくる笠ちふ切　利牛

川越の爺ーのちとあれち　野坡

平地の寺のちちき穀頃　芭蕉

千枚を日向の方へさらせく　利牛

塩出て鴨の荒おくくちつし　孤屋

業用ふ浮世をちる爲氏言　芭蕉

又冷炭ちふひを　野坡

ちちちちを大晦日も四ッの後　孤屋

客衆のこのむ狀の繼先　利牛
中よくて傍輩合の借いらひ　野坡
壁をたゝきて寐せぬ夕月　芭蕉
風やみて秋の鷗の尻さがり　利牛
鯉の鳴子の綱をひかゆる　孤屋
ちらはらと米の揚場の行戻り　芭蕉
目黒まゐりのつれのねちみやく　野坡
どさくさも花の三月中時分　孤屋
輪炭のちりをはらふ春風　利牛

芭蕉　野坡　孤屋　利牛
各九句

雪の松おれ口みれば尚寒し　杉風
日の出るまへの赤き冬空　孤屋
下肴を一舟浜に買すてゝ　芭蕉
あんとゝきかする大名の供　子珊
身ふるへる風にふらつく萩　桃隣
粟をうゑてひろき畠地　利牛
鍛冶の燒きれたる秋の雨　岱水
新こゝろく鰹節うる　野坡
二三尾菜不かゝふ門の銀　子珊
るの為めのさかる干車の　水甌
升の濱帯紐くるゐる夜の来て　石菊
猪の子のさゝをるのちらく　杉風
まお者のひよりもえぬ浦の秋　野坡
めうさに風のえやるさかる　利合
宵宵の月をかくちらく梳大工　依々
背中へのぼる児をとりあひる　桃隣
茶むしろのきらひくようる花あおく　子珊
川らそくふ小鮎いらきる家　石菊
繪書されて味よき雑子の毛　杉風
登戸へ上重も山へ切らち　岱水
かめさいふみ齋ことも親ある　孤屋
見集めていおおき精進日　曽良
膝米と拾て俵へまえり込　桃隣
つくしもとせし茶代の礼　依々
書みてなくいそ自慢ゑきちらし　沾圃

濱へ　りく火とろろ　子珊　来る　利牛
又名も　佛の舎て　松を　利牛　杉風
拂をこうして　賢こ　名をし　杉風
大坂の人ふ　ちれ　るを　利合
酒とろま　紙を　祖母の　ふ入　野坡
ちこけぬる　水の　酒の　子珊
次のい　杉屋て　つふむ　せる　利牛
須角ふ　かこて　屋れい　坂ふ　曽良
七つの　名ふ　賀を　ふる　杉風
花の　名ふ　ふ　ふ　桃隣
男ま　ま　蓮　ろ　へ　岱水

杉風五　孤屋二　芭蕉一
子珊五　桃隣四　利牛三
岱水三　野坡三　沾圃二
石菊二　利合二　依々二
曽良二

亀田甚三郎校正藏板

嘉永四年
亥六月發行

江戸製本所

日本橋西河岸町
亀田屋甚藏

本石町十軒店
英屋大助